

地域情報（県別）

【鳥取】先端の不妊治療を行うクリニック内に相談センターを開設-飯塚敏子・鳥取県西部不妊専門相談センター相談員に聞く◆Vol.1

2020年9月25日（金）配信 m3.com地域版

専任の不妊症担当看護師が中心となって、不妊治療の無料相談に対応する米子市の鳥取県西部不妊専門相談センター。県の委託を受けて運営するミオ・ファティリティ・クリニック（以下、MFC）との連携などを当センター相談員の飯塚敏子氏に聞いた。（2020年7月20日オンラインインタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回はこちら

――鳥取県西部不妊専門相談センターの概要を教えてください。

当センターは鳥取県の委託を受けて、米子市のMFC内に2016年に開設されました。鳥取県は東部と西部の2カ所に不妊専門相談センターを設置していて、東部は鳥取市の県立中央病院内に開設されています。

不妊専門相談センターとは不妊や不育にまつわる相談や、心の悩みを相談できる場所で、私を含めた不妊症担当看護師2人が専任スタッフとして在籍しています。相談方法は、面接と電話、メール、ZOOMを利用したオンライン相談があり、匿名で何回でも無料で相談できます。2016年は約150件、2019年は220～230件ほどの相談が寄せられ、徐々に認知されてきたと感じます。また現在は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で行われていませんが、近隣自治体での出張相談や、特定不妊治療指定医療機関が設置されていない中部地域をカバーするため、倉吉市内での出張相談も行っています。



ミオ・ファティリティ・クリニック内観

――運営するMFCはどのような特色を持つクリニックですか。

MFCは妊娠を希望するすべての方の不妊治療と妊娠、出産までをカバーすることをコンセプトに、院長の見尾保幸が1996年に開設しました。当初は不妊治療と産婦人科の診療がひとつの病棟で行われていましたが、不妊治療中の方の精神的な負担を考えて、現在は産科外来や一般婦人科外来に対応するマタニティユニットと、不妊外来や女性外来、生殖医療部が置かれているリプロダクティブユニットに分かれています。

院長自身が生殖医療の第一人者であり、「不妊治療の発展に貢献し、赤ちゃんを望む人たちの力になりたい」との思いから臨床研究も盛んに行われています。最近では2020年5月に、体外受精をさせた受精卵の成長を阻害する膜を取り除き、受精卵の成長を助ける治療に世界で初めて成功しました。

――先端の不妊治療を積極的に取り入れているクリニックなのですね。

そうですね。妊娠できたご夫婦に元気な赤ちゃんを抱っこしてもらうために、すべてにおいてクオリティーの高い医療サービスを提供することを追求しています。そのため、県西部だけでなく中部や東部、また島根県など県外からの患者さんも多いです。不妊治療ではタイミング法、人工授精、体外受精、顕微授精などに幅広く対応して実績も豊富にあり、不妊の原因に適した治療を行っています。その他にも不妊治療教室や母親学級、ヨガ教室、そして赤ちゃん

んとご家族の妊娠から出産後の健康的な生活のための食の提案も積極的に行っています。また、鳥取県西部不妊専門相談センターに寄せられる相談内容によっては、MFCの胚培養士や臨床心理士、助産師たちも相談に応じています。



飯塚敏子氏

――鳥取県西部不妊専門相談センターの相談者の傾向を教えてください。

一番多いのは、不妊治療がまったく初めてという人です。結婚をして不妊治療を考えているという人や、結婚をしていないけれども自分の体を心配して検査したいという人、また、結婚年齢が上がって妊娠できるか心配という相談も増えています。

すでに不妊治療を受けている人だと、「今の治療で良いのか」「転院を考えている」といった治療への不安を抱えている人が、セカンドオピニオンの意味合いで相談することが多いです。またMFCでセンターの存在を知って相談に来る人もいますし、一人目の赤ちゃんを不妊治療で妊娠・出産した人が、二人目の治療のスタート時期を相談することもあります。二人目不妊の場合は卒乳をしなければ月経がなかなか再開しませんから、卒乳の相談にも応じるなど、相談内容もさまざまです。

――対面と電話、メールでの相談とでは、地域や性別に違いはありますか。

対面相談は、結婚前の方だと女性ひとりで来ることが多く、結婚されている場合はご夫婦で参加することが多いです。男性単独の場合は、性交障害の悩みや、乏精子症や無精子症を疑っているといった相談がありますが、こういった男性からの相談は匿名での電話相談が多いです。

また相談者の対象を鳥取県民に限定していないので、県外の人からの相談もあります。対面相談は鳥取県と島根県東部の人がほとんどですが、メール相談、電話相談になるとかなり範囲が広がります。匿名の相談も多いので住んでいる地域がわからない人もたくさんいますが、関東や関西からも電話がかかってきます。そうした県外からの相談者は、山陰地方出身というわけではなさそうです。不妊治療を受けている人は、治療についてさまざまな情報を調べています。恐らくその中で当センターのことを知って、セカンドオピニオンとして意見を聞きたいと、電話をかけているようです。

◆飯塚 敏子 (いづか・としこ) 氏

2016年に開設された鳥取県西部不妊専門相談センターにて専任の相談員として従事。助産師。

【取材・文＝倉恒弘美、写真はすべて提供】

2016年に開設された鳥取県西部不妊専門相談センターにて専任の相談員として従事。助産師。

【取材・文=倉恒弘美、写真はすべて提供】

→ 鳥取県に関する他のニュースを見る

[鳥取県](#)

[島根県](#)

[岡山県](#)

[広島県](#)

[山口県](#)

[徳島県](#)

[香川県](#)

[愛媛県](#)

[高知県](#)

鳥取県に関連するニュース

市立病院医師を略式起訴 鳥取、少女に淫行
10月2日

【鳥取】1位山陰労災病院、鳥取県立中央病院、2020マッチング中間
10月1日

新型コロナ：新型コロナ 鳥取大病院、自費PCR検査を開始 新たに2台導入、体制整備 / 鳥取
9月28日

【鳥取】先端の不妊治療を行うクリニック内に相談センターを開設-飯塚敏子・鳥取県西部不妊専門相談センター相談員に聞く◆Vol.1
9月25日

4棟解体、25年新棟開院 安芸市民病院建て替え、広島市が基本計画
10月6日

記事検索

